

「わあ、可愛い〜」出来上がったオムライスを見て、マジヨリアルは顔がパツと明るくなった。「それはオムライスか？それともワシのエプロン？」マジワートが茶目つ気のある表情で言うと、「そんなフエミンなエプロンを何でしているんだい？」ウイザットが訊ねた。「ああ、これは娘のじゃよ。彼女は今は別に住んでおるがの」「ところで、奥様はどこらに？」娘が居るといふことは、当然奥さんも居るのだからマジヨリアルは思いついた。「そこにおるよ」マジワートはそう言うマジヨリアルの隣の空間を顎でしゃくって示した。「え？」二人は誰も居ない空間を見て、ぞつとした声を上げた。「はははは。冗談じゃよ」マジワートは悪戯つ子の様な顔をして笑いかう続けた。「5年前に魂の村に帰ったんじや。でも、彼女の魂は常にワシの傍らにおる」「魂の村？そう言えば別のマジワートさんもお話をしていたわ。私、実はマジワートさんと前に何処かでお会いしたような懐かしい感じがしたんです。マジワートさんが言うには、それは同じ魂の村から来ているからだ」と「へえ。魂の村ねえ。ところでそれは何のことだい？」ウイザットが言葉を探む。

「魂の村は、EN-SOUPにある村で、ワシらの肉体に宿る魂が元々存在している場所じや」「EN-SOUP?」「EN-SOUPとは、この銀河系も超えて、もっと上の次元、最高次元にあると考えられている世界で、有であつて無であり、初めであつて終わりの世界である、全てを包括している世界のことじや。詳しくは、魔女ともえの書籍「地球に生きる宿命を光に変えて」のP14に書いてあるぞ」「あれ？その人のことは爺さんも言っていたな。だけど、この物語の中では、ちよいちよい彼女の書籍を宣伝するんだな」「ははは。それは無理もない。ワシらは魔女ともえの脳内のEコマダからのう」「え？じゃあ私達は本当は存在していないんですか？」「そうかも知れないし、そうではないかも知れない」「え？何とも曖昧じゃなにかさ」ウイザットが長い金色の髪を耳に掛けながら言った。

「ま、オムライスを食べながら聞きなさい」マジワートはそう言うのと、二人にスプーンを渡した。「おお、これはウマイぞ。この料理を考えた人は天才だな」ウイザットは、素早く一口を食べてからそう言つて、話の続きのことはすっかり何処かに行つたかの如く、もぐもぐしながら満面の笑みを浮かべた。そこで、マジヨリアルが、スプーンをオムライスにサクリと差し入れながら「そうかも知れないし、そうではないかも知れないとは、どういう意味ですか？」と再び話を戻した。



マジワートは上に掛けてあるケチャップをスプーンの背でくるくると卵の表面に伸ばしながら「そも

そも現実とは何じゃ？人間が現実を認識する時、五感により受け取つたものを脳内で処理し、それを現実と認識しておるが、それが本当の現実である、真に証明は出来るかな？現実というものも目の前にはある次元だけであると言えるかな？同じ事実の記憶であっても、人により、全く違う経験となっていることもある。それは各自の脳による知覚の仕方の違いだけじゃろうか。脳内にある世界が外界との接点を絶対に持たないと言えるかな？自分には見えて、人には見えない、見えないから存在しないと、100%言えるかな？幽体離脱や臨死体験を単なる脳による錯覚、或いは、霊体や天使、フェアリーを単に脳による幻視であると言いつけるかな？また、それが脳による錯覚、或いは幻視であつたとしても、現実世界の直ぐ隣にその世界が存在していないと言いつけるかな？」と言つた。そして彼は、スプーンにオムライスをこ人もりと掬い取り、大きな口を開けてそれを頬張つた。 つづく

## チャネリング相談

**Q** LINEで既読になっても、返事を中々返してくれない彼は、私のことを本当に好きなのでしょう。私はいつも直ぐに返すのに…。一言、或いはスタンプだけでも返してくれればいいのに、それもしてくれないことも多いです。でも、逢えば優しいです。どう理解したらいいのかわかりません。(West LA 在住 Pさん)

**A** LINEは便利な媒体ではありますが、相手の状況や都合とは無関係に反応を求める半ば強制的な側面を持ったツールでもあります。LINE送信後、それが既読になった際、即座に反応があれば自分を好いてくれている、なければ本当に好きじゃないという発想は時に短絡的とも言えますし、相手の時間が全て自分の為にあるという様な錯覚と言える場合もあると思います。

単なる一言を返せばいい話ジャンと思うかも知れませんが、それはあなたの価値観です。相手は、あなたからのLINEに直ぐに反応する為だけに生きているのではないですし、あなた程LINEでのやり取りというスタイルが好きではないのかも知れません。

LINEに限ったことではないですが、自分ならこうするの、という物差しだけで、相手を測ることは、時に真実から遠い憶測を導き出してしまふこともあります。

彼の愛をLINEの反応だけで判断するのではなく、トータルでの判断こそが重要であると言えます。

LINEは即座に返してくれても、それ以外の部分で愛が感じられないなら、それは単にLINEに関してマメなだけでしょうし、または、LINEのレスポンスは悪いけど、それ以外の部分で愛が感じられるなら、LINEに重きを置いていないだけなのかも知れません。

愛という目には見えないものを、LINEという目に見えるもので測りたいお気持ちちはよく解りますが、愛とは表面的な行動だけでは測れないもっと奥深いものではないでしょうか。

注意：魔女ともえが述べる内容はチャネリングによるひとつのサジェスションです。